



にじのはし幼稚園

園だより

令和2年10月号

港区立にじのはし幼稚園

園長 酒井 正美



長い梅雨の後の夏は、これでもかという程に毎日暑い日が続きました。日中は暑さが残る日もありますが、季節は確実に秋へと変わりました。

暑さの最中、今年は一段と蝉の声が大きかったように思います。そして今年は、蝉とりを楽しむ子が多く、蝉を手で掴む頼もしい姿が毎日のように見られました。ですが、子供たちを楽しませてくれた蝉の声もさすがに聞こえなくなりました。先日、4歳児の誕生会で、「たくさん鳴いていた蝉の声は、まだ聴こえるかな？」と話をすると、一瞬の静寂とレインボー公園の方へ耳を澄ませる子供たちの真剣な表情がありました。そしてはっとした後、「また後で鳴くんじゃない？」「どこかに行っているのかも。」と、子供たちからの声がありました。5歳児の誕生会で同じ話をすると、「秋になったからだよ。」「蝉はずっとはいないんだよ。」とのこと。今年度は学年ごとに誕生会を実施していますので、同じ話をしても返ってくる反応に違いがあり、1年の成長の違いを感じ大変興味深いです。あんなにたくさんいた蝉や大好きな夏の虫たちが季節とともにいなくなることを、体験から学び、物事の仕組みや季節に対する感覚等を身に付けていく子供たちです。

秋の草花や虫の声、月の美しさなど、秋の訪れや深まりとともに子供たちと楽しみたい身近な自然がたくさんあります。「どんな声で虫が鳴いているのか」「何という虫の声なのか」「今日はどんな形のお月様なのか」など、親子で楽しめるといいですね。

月が美しい季節ですが、日本語には月の形の変化を表す、「満ち欠け」という言葉や、「三日月、十三夜、中秋の名月」など月の様子や月にまつわる習慣を表す言葉、「稲が頭を垂れる」といった季節がわかる言葉もあります。言葉や文章は、単純に物事を表すというだけではなく、私達の感性や思考と密接につながっています。言葉や文章で表すことができるということは、そのような感性があり思考がされているということです。幼児期の子供たちにとっては難しい言葉かもしれませんが、大人が使う環境の中で育つことは、小さなうちから親しみ、細やかな感性が育つとともに言葉が磨かれていくことにつながります。子供たちには、大人との会話、絵本や物語などの中で、豊かな言葉に多く触れてほしいと願っています。

今月は、各学年のにじっこ運動会を予定しています。感染症への対策から例年とは違う開催方法となりますが、保護者の皆様には是非ご参加いただき、お子さんと一緒に体を動かす楽しい一日にしていだければと思います。

○各学年の日程で実施しますが、経験する内容は例年と同様です。

○各学年のにじっこ運動会の前後に学年間の交流をもち、互いの刺激や成長につなげます。

○感染症対策にご協力いただきながら、競技への参加、応援、学級での昼食を楽しんでください。体を動かす楽しさや学級のみんなで集う楽しさを親子で味わう機会とします。

幼稚園では上記のように考え、「〇〇組 にじっこ運動会」を実施します。子供たちの取組の様子は、学年だより等でお知らせしていきます。子供たちが楽しんでいること、頑張っていることを共有し、成長を喜び合いながら、楽しい「〇〇組 にじっこ運動会」にしていきたいと思います。